

れんごう中越地協

第1175号2025.5.7
連合中越地域協議会
長岡市愛宕3-7-24
TEL 0258-86-0111
FAX 0258-86-0884
発行人 矢島 良彦
http://tyuuetu.net/
定 価 1部10円
購読料は会費に含む



第96回メーデー各地区大会を開催 支え合う安心社会を実現しよう！

第96回メーデー地区大会が、長岡地区大会をはじめ中越地協各5支部において、盛大に開催されました。今年のメーデーのメインスローガンは「次代につなぐ平和の願い！みんなでつくろう支え合う安心社会と確かな未来（あした）を！」県統一テーマは「物価高に負けない賃上げ！働く仲間が幸せになれる 明るい未来（あした）を実現しよう！」でした。5月1日（木）には、長岡市立劇場大ホールにて長岡地区大会が開催され、集会に先立ちデモ行進も行われました。デモ行進と集会には、組合員やそのご家族約600名が参加しました。

当日は爽やかな晴天に恵まれ、午前8時30分よりアオーレ長岡と防災公園の2力所から、3集団に分かれてデモ行進を実施。今回はアピール度を高めるため、市中心部を通る長めのコースを設定しました。参加者は、「祝メーデー」の横断幕

をはじめ、物価高に負けない賃上げの実現、公正なワーカールール、子育て支援の充実などを訴えるプラカードやアピールボードを掲げ、シユプレヒコールを行いながら市立劇場へと行進しました。式典は、長岡市立劇場大ホールにて9時45分に

開会。司会はSJネット委員会の権頭委員長と渋谷委員長が務め、島倉委員によるメーデーの起源朗読から始まりました。主催者挨拶に立った矢島実行委員長は、「25春闘は、物価高に負けない大幅賃上げを求める取り組みだった。多くの組合で例年を上回る賃上げを実現できたが、物価上昇には追いついていない。格差も拡大している。賃上げを一過性で終わらせることなく、賃上げが当たり前の社会へとつなげていかなければならない。そのためにも、今もなお闘っている中小組合への支援を継続していく必要がある」と訴えました。また、「支え合う社会」の実現に向けて、夏の参議院選挙をはじめとする政治課題や、災害被災地支援、平和運動への参加・連帯を呼びかけました。



大会には多くのご来賓にもご出席いただき、連合新潟の小林俊夫会長および長岡市の磯田達伸市長から祝辞をいただきました。



今回の記念講演は元日本テレビアナウンサーで、現在はフリーとして活動する上重聡さんを迎えました。「アナウンサーのコミュニケーションেশン術と挑戦する重要性」と題した講演が行われました。放送の現場で培った経験と、多くの人との関わりの中で得た学びを交えながら、挑戦する姿勢の大切さが語られました。冒頭、上重さんは「最初に触れる水がお米の味を決める」と例え、人生や教育でも「最初の印象や環境」が重要であると強調。特に新人社員には、早い段階で良質な経験や情報を与えることが、成長の糧となることを示しました。

また、少年時代の野球経験からも多くを学んだと言います。中学時代は劣等感に悩みながらも、高校での厳しい練習に耐え抜き、甲子園出場を果たすまでに成長。その原動力は「意識の持ち方」だったとし、「どんな作業も意識次第で意味が変わる」と、草むしりを例に熱く語りました。親元を離れての寮生活を通じて感じた感謝の気持ちや、人との関わりの中での気づきも、現在の糧になっているそうです。さらに、青山学院大学・原晋監督の選手育成方法に触れ、組織づくりにおいて「褒めること」「考えさせること」の重要性を紹介。遅刻した選手に対し感情的に叱るのではなく、自ら気づきを得られるよう導く指導法が、結果的にチームの成長につながると説きました。若手の意見を尊重し、失敗も成長の糧とする柔軟な組織文化が、強いチームや職場を生むという指摘は、働く私たちに示唆に富んでいます。

また、体調不良が仕事に与える影響や、自身のフリー転向後の苦労、テレビ番組出演をきっかけにチャンスを得た体験も披露。「助けてもらったからこそ、今は子どもたちの野球教室などを通じて恩返しをしたい」と話しました。最後に、「会社のイメージは社員一人一人の行動で決まる。長期的なビジョンと準備が大切」と語り、講演を締めくくりました。挑戦する心、他者と切磋琢磨する姿勢、そして感謝を忘れない気持ちが、働く私たちにも大切な姿勢であることを再認識させられる時間となりました。



特賞にはオーエム製作所労組のWさんが当選し、ステージ上で目録が贈呈されました。大会は、メーデー宣言の採択および特別決議を行ったのち、矢島実行委員長長の首頭による「団結ガンバロー」三唱で閉幕となりました。

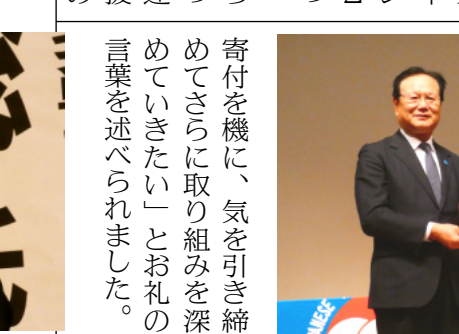
「挑戦する心が人を育てる」 上重聡さん講演より



講演終了後には、県内各地のメーデー会場を回っている打越さくら参議院議員が駆けつけ、「誰ひとり取り残さない社会の実現に向けて、連帯して取り組んでいきたい」と挨拶されました。



寄付を受けた小林友梨さんは、「自分自身も不登校の子どもを育てるシングルマザーとして、2015年から社会とのつながりを求めて自主イベントを始めた。ママたちが中心となり、居場所づくりやフリースクール運営、シングルマザー支援に取り組んでいる。この



寄付を機に、気を引き締めてさらに取り組みを深めていきたい」とお礼の言葉を述べられました。

最後のお楽しみは
大抽選会 特賞 旅行券3万円
大会中盤では、五十嵐副実行委員長よりプラカードコンクールの審査結果が発表され、全13作品のうち、賃上げや価格転嫁、子育て環境などをテーマにした10作品が入選作として紹介されました。

地域貢献事業 子育て団体に寄付金贈呈



打越さくら参議院議員
連帯のあいさつ

講演終了後には、県内各地のメーデー会場を回っている打越さくら参議院議員が駆けつけ、「誰ひとり取り残さない社会の実現に向けて、連帯して取り組んでいきたい」と挨拶されました。

第96回メーデー開催状況

地 区	開催日時	会 場
長 岡	5月1日(木)9:45	長岡市立劇場大ホール
見 附	5月1日(木)18:00	アルカディア小ホール
小千谷	4月26日(土)10:00	小千谷市民会館
北魚沼	4月26日(土)10:00	小出ボランティアセンター
南魚沼	4月26日(土)9:30	南魚沼市民会館
十日町	4月29日(火)9:30	越後妻有文化ホール段十ろう

（長岡地区以外の開催報告は次号に掲載します。）



今年のメーデー長岡地区大会では、デモ行進で使用するメッセージボードや街宣車の装飾に、中川めぐみさん（絵本作家）によるイメージ画が活用されました。これらの作品は、S J ネット委員会

と協力して制作されたもので、開会前には中川さんご本人から作品に込めた想いについての報告もありました。

1枚目の絵のテーマは「支え合う」。中川さんは、どんな仕事にも意味があり、それが存在していること自体が「ありがたい」の証であると語ります。工場で単調に同じものを作り続ける仕事でも、それを待っている人がいることを想うと、心が温かくなるくそんな優

メーデーに込めた想いをカタチに

中川めぐみさんと描いた「支え合い」と「平和」

しさを形にした作品です。絵に登場するハートは、お金やモノを象徴するだけでなく、その奥にある感謝や愛といった「目に見えない大切なもの」も表現しています。中央に描かれた黄色い丸は、見る人によって太陽や心と捉えられ、多様な解釈を受け入れる温かな存在として描かれました。

2枚目のテーマは「平和」。労働の場における平和とは何か、議論を重ねる中で、「定時で帰れる」「ボーナスがある」「ちゃんと休める」といった現実的な願いが多く挙がりました。中川さんは、仕事に追われ心や体を壊してしまう人々を見てきた経験から、「命は有限」であることを表す作品を描きました。労働組合との打ち合わせの際に参加者が描いた「ハート」に時計の針を加え、命という時間をどう使うかという問いを投げかけています。

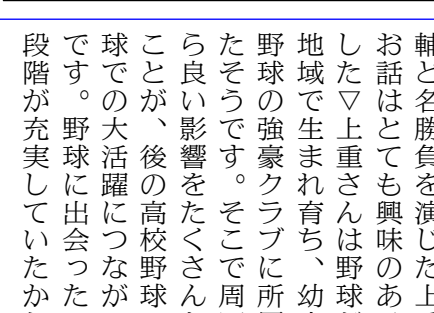


「農業・食料・環境問題を学ぶ」事業が開始しました。事業開始に先立ち、長岡地区の第1回実行委員会が4月10日（金）午後6時30分より、地協事務所にて開催されました。

実行委員会の冒頭、会場副実行委員長（連合中越副議長）が「この取り組みを通じて、食料や環境に関する理解を深めるとともに、単組や構成組織の枠を超えた交流の場としても発展させていきたい」と挨拶しました。続いて事務局より、こ

れまでの活動について報告がありました。昨年度は、信濃川河川敷にある福祉市民体験農園「Oasis R」にて、NPO法人UNE、フードバンクながおかをはじめとする関係団体と連携し、4回イベントを実施。延べ約300名の参加があったとの報告がありました。その後、25年度の事業計画について提案・協議を行い、以下の内容を決定しました。

具体的な日程としては、4月19日 開園式（ジャガイモ作付け等）6月14日 玉ねぎの収穫とサツマイモの作付け7月19日 夏野菜収穫10月25日 秋野菜の収穫と畑仕舞いこれらの活動を通じて、地域や他団体との交流を深め、組合員同士の結びつきも一層強めていくことを確認しました。



最後に、連合中越地協の「農業・食料・環境問題を学ぶ」事業として、ユニバーサル農園「Oasis R」（NPO法人UNE×フードバンクながおか×連合中越）の開園式が、4月19日（土）午前9時から開催されました。

「農業・食料・環境問題を学ぶ」第1回実行委員会を開催

具体的な日程としては、4月19日 開園式（ジャガイモ作付け等）6月14日 玉ねぎの収穫とサツマイモの作付け7月19日 夏野菜収穫10月25日 秋野菜の収穫と畑仕舞いこれらの活動を通じて、地域や他団体との交流を深め、組合員同士の結びつきも一層強めていくことを確認しました。

「農業・食料・環境問題を学ぶ」事業農園「Oasis R」開園式

ジャガイモの植え付けからスタートしました。3本の畝に約30日間隔で種芋約350個を植え付け。種芋を置く人、間に肥料を置く人に分かれ、実行委員の協力のもと、手際よく作業を進め、約30分で完了しました。続いて、昨年に植えた玉ねぎの除草と追肥作業を実施。冬を越して15cmほどに成長した玉ねぎのまわりを、丁寧に除草しました。



最後に、全員で記念撮影を行い、後片付けをして閉会となりました。自然とふれあいながら、農業と食、そして地域とのつながりを体感できる有意義な一日となりました。次回も、6月14日（土）に玉ねぎの収穫とさつま芋の作付けを予定しています。

第2回教宣文化担当者会議を開催釣魚大会は6月28日4月17日（木）午後6時より地協事務所において、第2回教宣文化担当者会議を開催しました。最初の議題として、第50回となる、ゆとり釣魚（キス釣り）大会について協議。他の行事との関連などから、今年は6月28日（土）に開催することとなりました。また、会場については、例年どおり柿崎中央海水浴場となりました。開催要項等も昨年と同じとすることとし、連休明けに各構成組織を通じて募集することとなりました。

先日5月1日（木）に長岡地区メーデーが行われました。メーデーの中では、元日本テレビアナウンサーの上重聡さんから記念講演をしていただきました。学生時代に野球をしていた私にとつては、甲子園であの松坂大輔と名勝負を演じた上重さんのお話はとても興味のあるものでした。上重さんは野球が盛んな地域で生まれ育ち、幼少期から野球の強豪クラブに所属していたそうです。そこで周囲の人から良い影響をたくさんもらったことが、後の高校野球、大学野球での大活躍につながったそうです。野球に出会ったスタート段階が充実していたからこそ、

その後自ら努力することができ、成果を得られたのではないかとおっしゃっていました。そして、厚生労働省の調査によると、入社3年目までの若手の離職率が3割を超えているというデータが出ています。離職理由として、人間関係の悪化や働き方、ミスマッチなど環境面が多くなっています。労働組合は働きやすい環境という面で労働者に多大な貢献をしています。未来ある若者のため、そして、すべての労働者のために共に頑張っていきたい。そして、誰もが仕事にやりがいを感じ、高め合っていけるような職場を目指していきたいと思います。

事務局次長 半間 陽介 挨拶 3 No107